

数を数えて演奏・交代する

ドラムテーブル アクティビティ
シリーズ – レッスンプラン
発達障害及び自閉症の生徒対象

レッスン 3



対象項目

コミュニケーション、学力、認知、感覚運動、社会性、

スキル領域

言葉の理解、算数、シーケンシング、集中力、粗大運動、順番で交代する/衝動のコントロール、チームワーク

目標

参加者は、

1. ドラムを順番に叩き、マレットを次の人に渡して交代する。
2. お互いにやりとりをする。
3. パターンの違いを認識して、カウントが分かる。

目的

このレッスンを通じて、参加者は次のことができるようになります。

1. 交代すべきときとそうでないときの順番が分かる。
2. 腕と手の動きを存分に使いながら、次に渡す、数えることをする。

教材

- レモ CST ドラムテーブル 40”
マレット 1人2本ずつ
- ※レモ CST ドラムテーブル 30”、
22”でも可。その場合、人数の多いグループでは交代して叩くようにする。
- ドラムテーブルアクティビティシリーズ
Videoレッスン3
comfortsoundtechnology.com/lessons (ウェブ無料公開)

音楽療法

公認の音楽療法プログラムを修了した信頼の置けるプロが療法の一環として関わり、個々に設定された目標を達成するために臨床的に証明された音楽の使用を実施すること。

ご自身が認定音楽療法士であるか、認定音楽療法士と協力して行う場合、付属資料「音楽療法ガイドライン」を参考いただき、対象者へのより深い機会の提供にお役立てください。

準備

参加者はドラムを囲み輪になり、動くのに適度な間隔をとって座るか立ちます。必要な教材は全てそろえておきましょう。時間は15分、必要な場合はそれ以上とって行います。

レッスン

これから何をするか説明をします。説明はゆっくり簡潔にします。実際にやって見せ、その後に理解できているかきいて確認します。

1. マレット1本からはじめます。参加者に、左にいる参加者、右の参加者を見て確認してもらいます。聴くこと、交代すること、パートナーにマレットを丁寧に渡すことの重要性について話し合うよう導きます。輪のどちらの方向に回すかを決めます。パートナーの目を見て、マレットを渡すお手本を見せます。その後、マレットを渡して順番に回って叩くようにします。その後、逆の方向でやってみます。
2. 次に、マレットで1回ドラムを叩いてから次の人に渡します。何周かうまくできたら、2回叩いて渡す、4回叩いて渡す、というように叩く回数を増やすなどしてみます。全員でいっしょに声を大きく出してカウントするようにしましょう。逆方向に戻るのも忘れないようにします。
3. 何周かうまくできたら、参加者自身にパスさせること、決めること、何度叩くか伝えることのリードを任せます。

応用編

1. CDの音楽に合わせ、演奏したりカウントしたりします。
2. マレットを2本に増やして両手で演奏します。
3. たとえばドラムのリム（端）など、ドラムのヘッドではない部分を叩いていろんな音でカウントしてみます。
例) 1・2でドラムヘッドを叩き、3・4でマレットの柄の部分で打ち鳴らす。
4. 音楽なしでレッスンをしてみましょう。レッスン中はリズムのキープやカウントに注目します。アクティビティ中、安定したテンポから、テンポを変えたりします。
リズムのキープや数のカウントといったことに集中します。アクティビティの進行具合で、安定したリズムに注目したり、テンポを変えたりします。

参考情報

全米音楽療法協会

<http://www.musictherapy.org/>

The ComfortSound

<http://www.thecomfortsound.com/>

REMO, Inc.

<http://remo.com/>

著作権

本印刷物の著作権は以下の個人、会社に帰属します。

内容の一部、または全部を無断転載することを固く禁じます。

著者：ジョージ・トンプソン

George Thompson

ミュージック&パフォーミング
アーツディレクター (TERI, Inc)

協力：テリー・ウィナー

Terri Wiener

MT-BC 米国認定音楽療法士

音楽療法士 (TERI, Inc)

Remo, Inc.